

保井コノの年譜

(M: 明治、T: 大正、S: 昭和) 誕生日以降の年齢を表示

1880 (M13)年	2月16日	香川県大川郡三本松で生まれる。 ^(註1)
1895 (M28)年	15歳	4月11日 香川県立尋常師範学校女子部に入学。
1898 (M31)年	18歳	3月27日 香川県立尋常師範学校女子部を卒業。 4月11日 女子高等師範学校理科に入学。
1902 (M35)年	22歳	3月30日 女子高等師範学校理科を卒業。 理科の卒業証書及びに随意科(習字音楽)修了証書、師範学校高等女学校の修身科、教育科、数学科、理科、体操科、音楽科の教員免許を受ける 4月7日 岐阜県岐阜市立岐阜高等女学校教諭。
1903 (M36)年	23歳	3月31日 岐阜県立岐阜高等女学校教諭。
1904 (M37)年	24歳	4月10日 私立神田共立女学校の授業を囑託される。
1905 (M38)年	25歳	4月11日 女子高等師範学校研究科に入学。生物学を専攻。傍ら、神田共立女学校で数学を教える。 「鯉のウエーベル氏器官について」を『動物学雑誌』に発表。
1906 (M39)年	26歳	植物学とくに発生学の研究に移り、さんしょうもの原葉体の研究開始。
1907 (M40)年	27歳	3月31日 動物植物の研究報告書を提出し、合格の証明書を受ける。女子高等師範学校研究科修了。 4月11日 女子高等師範学校助教授。
1911 (M44)年	31歳	「さんせうもノ原葉体ニ関スル管見」を『植物学雑誌』に発表。日本女性初めての科学論文。 この論文が東京帝国大学農学部教授三宅驥一氏の目に止まり、その後指導を受けることになる。 「さんせうもノ生活史」をAnnals of Botanyに発表。日本女性最初の外国雑誌に投稿した科学論文。
1913 (T2)年	33歳	12月20日 文部省外国留学生として、理科及家事研究の為、満二か年獨国と米国への留学を命じられる。
1914 (T3)年	34歳	3月18日 本邦出発。 4月13日 シカゴ大学植物学教室に入り、J. M. Coulter教授と C. J. Chamberlain 教授につき、細胞学的研究開始、かき(柿)について論文発表。 【8月、第一次世界大戦勃発、ドイツ行きは断念させられる】
1915 (T4)年	35歳	2月8日 マサチューセッツ州のRadcliffe Collegeに在学し、ハーバード大学の E. C. Jeffrey教授の所で植物組織の研究の新しい技術を研修し、引き続き、木蘭科植物及び日本産石炭、亜炭の組織を研究。
1916 (T5)年	36歳	6月2日 帰国。東京帝国大学藤井健次郎教授のもとで石炭の研究(1927年頃まで)。平行して東京女子高等師範学校で細胞学、遺伝学の研究開始。
1917 (T6)年	37歳	12月31日 東京帝国大学理学部において遺伝学研究事項調査を囑託される。
1919 (T8)年	39歳	8月8日 東京女子高等師範学校教授。
1922 (T11)年	42歳	7月24日 遺伝学研究事項調査の囑託を解かれ、東京帝国大学理学部植物学教室の授業補助並びに遺伝学研究事項調査を囑託される。妹マサと本郷東片町で共同生活を始める。 9月28日 勲六等瑞宝章(633626号)を授与される。
1924 (T13)年	44歳	とうもろこし、ひなげし、むらさきつゆくさ等を対象とする遺伝学の研究に取り組み始める。

1926 (T15)年	46歳	12月17日	勲五等瑞宝章(6792570号)を授与される。
1927 (S2)年	47歳	4月29日	「日本産石炭の植物学的研究」を主テーマとして、外8篇を添えて学位請求をし、東京帝国大学より理学博士を授与される。学位論文「日本産の亜炭、褐炭、瀝青炭の構造について」(日本女性博士第1号)
		5月31日	東京帝国大学理学部植物学授業補助の嘱託を解かれ、理学部植物学授業を嘱託される。
1932 (S7)年	52歳	6月15日	(内閣) 勅任官待遇。
1933 (S8)年	53歳	4月13日	勲四等瑞宝章(769904号)を授与される。
1937 (S12)年	57歳	4月23日	依願により東京帝国大学理学部植物学授業の嘱託を解かれる。
1939 (S14)年	59歳	5月19日	勲三等瑞宝章を授与される。
1941 (S16)年	61歳	3月31日	依願により東京帝国大学理学部に於ける遺伝学研究事項調査の嘱託を解かれる。 太平洋戦争始まる。
1945 (S20)年	65歳		原爆被爆植物(ムラサキツユクサ)の調査研究を始める。
1948 (S23)年	68歳		新制大学設置準備委員会委員長。
1949 (S24)年	69歳	6月30日	お茶の水女子大学発足、同大学教授。兼ねて東京女子高等師範学校教授。
1952 (S27)年	72歳	3月31日	お茶の水女子大学退官、同日東京女子高等師範学校名誉教授の称号を受ける。
		4月11日	お茶の水女子大学名誉教授の称号を受ける。
		4月14日	天皇皇后両陛下に御進講をする。
1953 (S28)年	73歳	6月	国際細胞学雑誌『キトロギア』の正編集長となる。
1955 (S30)年	75歳	11月	紫綬褒章を授与される。
1962 (S37)年	82歳	9月	バス停で倒れ、病床につく。
1965 (S40)年	85歳	4月29日	勲三等宝冠章を授与される。
1971 (S46)年	91歳	3月24日	本郷東片町148(東京都文京区向丘1-16-12)の自宅にて逝去。享年91歳。 [戒名:翠松院究誉理学妙寿大姉] 従三位に叙せられる。

(注1) 明治9年8月21日から明治21年12月2日の期間、三本松村は愛媛県に併合されていることから、明治13年2月16日時点での住所表記では、「愛媛県讃岐國大内郡三本松村」となります。
(現在の住所表記 香川県東かがわ市三本松)